明石のコミュニティ・スクール
未来にむけて 学びをかえる
未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

Twitter
YouTube

KomiKomiSukuSuku

For The Future
No.204
2023
3.15

明石市教育委員会事務局学校教育課　mail：gakkyo@city.akashi.lg.jp

「松が丘サミット」の歩み＝「松が丘小コミュニティ・スクール」の歩み

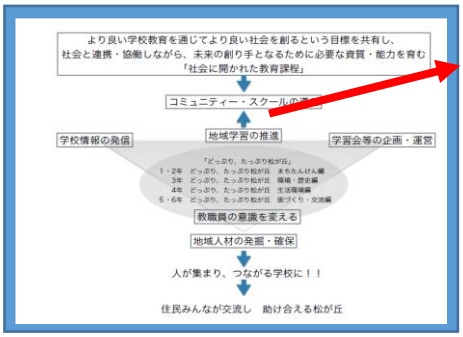
3月2日（木）に松が丘小学校で松が丘サミットが開かれました。6年生から引き継いだ5年生が自分たちのまち松が丘について考える学習のスタートです。子どもたちの視点から地域を見て、見えてきた課題やまちの未来の姿、そして、よりよいまちにするために自分たちができることを考えたプロジェクトについての提案をおこないました。最初はぎこちなさもありましたが、時間がたつにつれ距離も縮まり、対話がすすみました。もう、5年生の意識の中では6年生が始まっているのではと感じました。

そんな子どもたちの姿をみていると、松が丘サミットの進化と変化を感じました。そこでこの松が丘サミットの原点から松が丘サミットの歩みを振り返ってみることで、松が丘小学校コミュニティ・スクールの歩みを振り返ることができるのではと思っています。

★地域とつながった学びづくりのスタート期【2016年（平成28年）度】

〇松が丘小学校コミュニティ・スクール準備委員会（2017年度モデル校指定に向け3回開催）

これは、第1回準備員会でプレゼンで使用したスライドです。学校としてコミュニティ・スクールへのアプローチとして“地域学習”の推進を据えています。



地域学習の推進「どっぷり、たっぷり松が丘」

1・2年　どっぷり、たっぷり松が丘　まちたんけん編
3年　どっぷり、たっぷり松が丘　環境・歴史編
4年　どっぷり、たっぷり松が丘　生活環境編
5・6年　どっぷり、たっぷり松が丘　まちづくり・交流編

★地域とつながった学びづくりの試行錯誤期【2017年（平成29年）度】

〇松が丘小学校、コミュニティ・スクールモデル校としてスタート
　創立50周年周年行事実施

各教師、各学年で、これまでの地域とのつながりをベースに地域学習を模索。

コミュニティ・スクールとして“大人も楽しむ学習広場（習字・折り紙等）”がスタート

児童向けのレベルアップ教室・将棋教室がスタート

地域との交流例）

6 年修学旅行まとめ（プレゼン）

➡<u>保護者の方だけでなく、地域の皆さんにもオープン</u> ➡ **松が丘サミットの原点！！**

★地域との交流チャレンジ拡大期（松が丘サミット始動）【2018 年（平成 30 年）度】

〇学習成果の発表・報告➡オープン化が進む

地域との交流例）

6 年生：体育科シンクロマットの発表会　修学旅行報告会 etc.

6 年生：外国語学習＋松が丘のまちづくり交流 ➡ **松が丘サミットと命名**

“松が丘のよさを英語で保護者・地域に紹介”＋“松が丘の未来について意見交流”

★地域との交流デザイン期（地域との交流のカリキュラム化）【2019 年（平成 31 年）度】

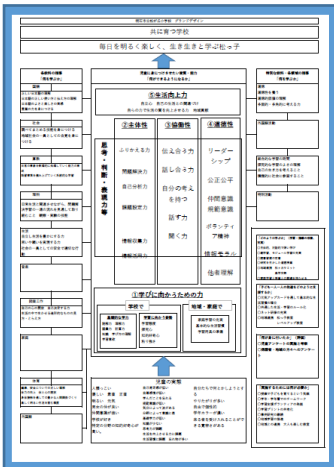
〇体育科を基軸として、主体的・協働的な学びにアプローチする研究から、学校教育目標の達成に向けカリキュラム・マネジメントに焦点をあてた研究にシフト

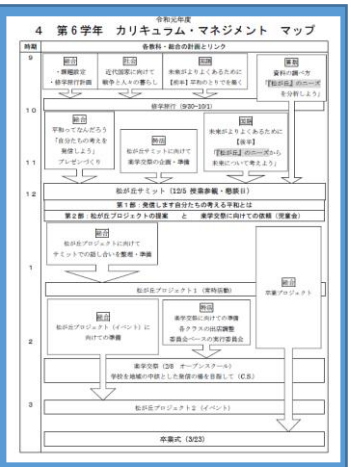
・学校教育目標の達成に向けてのグランドデザインづくり

・カリキュラム・マネジメント研修　6 年カリマネマップ試作

・ボランティア精神の育成

１年生から段階的に指導する。最終的には地域に広げていけるようにしていく。


グランドデザイン


6 年カリマネマップ

地域との交流例）

6 年生：修学旅行報告

松が丘サミット

松が丘プロジェクト

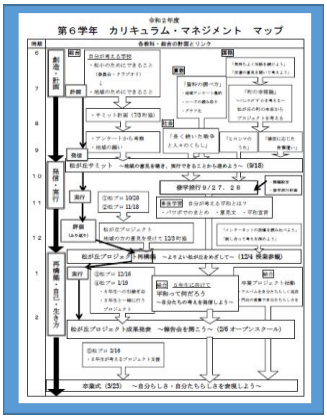
地域の中で自分たちにできること

〇地域の方と一緒に清掃活動

〇花を植える活動

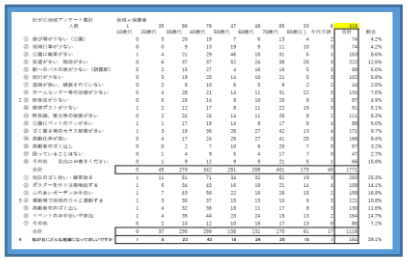
〇高齢者施設を訪問し高齢者と交流

★コロナ禍での地域とつながった学びの模索・チャレンジ期【2020 年（令和２年）度】



〇コロナ禍の中で全国一斉休校（5 月末まで）
　・コロナ対応の中でのグランドデザインの更新
　・休校明けからのカリキュラム・マネジメントマップを作成
地域との交流例）
　松が丘サミット 9 月→松が丘プロジェクト 10・11 月
　　↓
　松が丘サミット 12 月→松が丘プロジェクト 12・1 月
　　↓
　松が丘サミット　2 月

〇松が丘サミット・松が丘プロジェクトの新たな挑戦



・松が丘サミットでの提案づくりの根拠資料としてアンケート調査の充実
・振り返り・検討・修正を行い、プロジェクトを充実させるためにサミットの複数開催
・松が丘プロジェクトの月 1 回開催

★新たな地域とのつながり模索・チャレンジ・創造期【2021 年（令和 3 年）度】

〇コロナ 2 年目、新年度がスタート、不完全燃焼の 1 学期。
・研究テーマを「ありがとうでつながる学校・地域」に変更
・「ありがとうという存在から、ありがとうといわれる存在へ」学年系統図作成
・タブレット端末を使いこなし始めた子どもたち
・コロナ禍でもできることから
・コロナ禍の中で子どもたちが必要と考えた地域との交流

地域との交流例）

・地域とのミニミニ対話　まちづくり協議会役員会と教室をオンラインで結んでの対話

・実現した対面での対話、自分たちで考えたプロジェクトを提案。

松が丘プロジェクトの３つの目的

① 地域の方と仲良くなるための活動を行い、「人とつながるよさ」を実感する。

② 松が丘をよりよい街にするために、自分たちができること（松が丘プロジェクト）を考え、実行に移す。

③ 松が丘サミットをとおして、地域の方たちの思いや願いを聞き、共にできることを企画する。

・第１回松が丘プロジェクト　地域のみなさんと一緒にゲームや体操、花壇づくりなど活動しながら、つながりを実感できプロジェクトを企画。

・第２回松が丘プロジェクト １回目で見えてきた課題を修正→地域の方との距離が縮まる

１年生の時にお世話していた子が、６年生になってわたしたちのお世話をしてくれている。なんか、感動したわ。帰宅してから、当時の松っ子教室の DVD を探して観ていたら、お世話してくれた子の１年生の時の姿を観て、また泣いてしまった。

地域の方から

・コロナ第６波でオープンスクールが中止になっても

６年生からバトンを受け継いだ５年生が新年度に向けての「松が丘サミット」を初開催

→地域の方は会議室からオンラインで、保護者の方はご家庭からオンラインで

オンラインでの対話の中で生まれてきた疑問
・なぜ「松が丘サミット」を開くのか
・なぜ「地域での交流」・「地域の中での活動」が必要なのか
こうした疑問から、教員と地域の皆さんと保護者の皆さんの対話の必要性！
→翌年の夏の松が丘いどばた会議へ

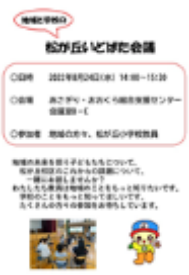
★子どもがつなぎ始めた地域学習エボリューション期【2022年（令和4年）度】

〇新たな取組
前年度末に6年生から引き継ぎ、1学期中の活動を松が丘サミットで提案
1学期中にプロジェクトをスタート
地域との交流例）
・今年度の6年生は「松が丘すてきプロジェクト」とネーミングしてスタート
・地域との交流に向け、昨年度は校内プロジェクトに取組み、1年生の朝の学習の時間に教室に出向き、朝の学習のサポート等にチャレンジ

・「まつっ子マルシェ（育てた野菜を販売）」によるホタル貯金に向け、松が丘ガーデンとの交流

・松が丘小学校ブックスポット本棚ペンキ塗り→ボランティア募集

大人の方だけでなく、子どもたちもペンキ塗りボランティアとして活躍。
松が丘サミットの中で生まれてきた様々なプロジェクトが子どもたちの参画意識を高めているのかもしれないです。



・年度末の「松が丘サミット」での課題を受け、教員と地域の皆さんと保護者の皆さんの対話
→「松が丘いどばた会議：の開催
➡話しやすく温かい方たちばかりで、和やかな雰囲気で地域や子どもたちのことを

話し合うことができ、有意義な時間になりました。学校に対するイメージや地域での困りごとをあのような形で気軽に聞くことが、ふだんの仕事をしていく中ではなかなか厳しいので、また次の「第２回いどばた会議」があるといいなと思います。　先生方からは前向きな感想がよせられました。

・学校の様子の発信としてインスタグラムをスタート

TEAM_MATUGAOKA

松が丘サミットを中心に地域とのつながりの中での子どもの学びを見える化しているのが“カリキュラム・マネジメントマップ”です。

〇1 年生：地域に愛されるステージ
〇2 年生：地域への気付きを生むステージ
〇3 年生：環境という視点で、学校づくりに参画するステージ
〇4 年生：福祉という視点で地域につながるステージ
〇5 年生：地域や学校づくりに参画するステージ
〇6 年生：地域と交流し、地域づくりに挑戦するステージ

6 年間での各学年の位置づけを明確にすることにより、6 年間のつながりが見えてきます。そんな活動の様子をインスタで発信しています。

・6 年生は松が丘すてきプロジェクトから松が丘ありがとうプロジェクトへ
・5 年生は次年度に向け、校内プロジェクトを始動、校内だけでなく、幼稚園や保育所との交流、就学時健康診断のお手伝いも

そして 6 年生からバトンを。松が丘すてきプロジェクト引継ぎ会ではしっかりと 6 年生から、松が丘すてきプロジェクトに込めてきた思いや願いを受け止めました。そしていよいよ、自分たちの松が丘サミットを 3 月 2 日に開催しました。

そんな地域とのつながり、地域の中での学びは高学年だけでなく。学年を超えてつながってきています。

4 年生は 2 月に自分たちが学んだ福祉体験をより多くの人に知ってもらおうと“ふれあい体験イベント”を開催しました。その“ふれあい体験イベント”を振り返る中で、体験してもらうだけでなく、学びの中で自分たちの想いや考えをもっと伝えたいということになり、Zoom で配信するための準備を進めています。子どもたちは、自分たちの学びの PDCA を回し始めているんですね。

修学旅行の報告から始まった子どもたちの地域へのアプローチが、松が丘サミットでの地域の方との対話、そして松が丘プロジェクトとして地域貢献や地域の方との交流へと姿を変えながら、各学年の学びが学年を超えてつながり、地域とのつながりを深めてきた足跡を見ていただけのではと思います。子どもたちは地域の中で人にふれながら少しずつ社会とつながり始め、自分たちの学びをデザインし始めているのかなと思います。

（文責：北本）